

# 第71回翠巒祭閉幕 残された課題

今年の第71回翠巒祭は6月3日、4日に開催された。今年も昨年と同じくチケット制での開催となった。しかし、配布枚数が増えたり、中学生以下はチケットが必要なくなったりと昨年よりも来客数が多くなるような形態で実施された。

また、校内装飾では「ソウシヨク改革」が行われた。校内をさまざまな装飾する装飾課、美術課、一般展示班で装飾テーマを「魔法学校」と統一することにより、例年よりも高いクオリティの世界観を作り出した。

新たな取り組みとして「タカタカパンプロジェクト」が行なわれた。このプロジェクトは、高料理研究会と群馬フードサービスが共同して3種類のオリジナルパンを販売するというものであった。また、高崎駅から高崎高校までのシャトルバスや仮装行列が今回から再開した。

そこで、元翠巒祭実行委員長の花田智紀くん(3の1)に今年の翠巒祭を振り返っての感想を聞いた。

まず、翠巒祭を総括して、「今年は各イベントのスケジュールを相互に調整し、お客様ができるだけ各場所のメインイベントを見ることができるようになったのはよかったと思う。一方で、実行委員や一般生徒の人事スケジュールに問題があり、過労の生徒が出てしまったのは反省点だ」と振り返った。

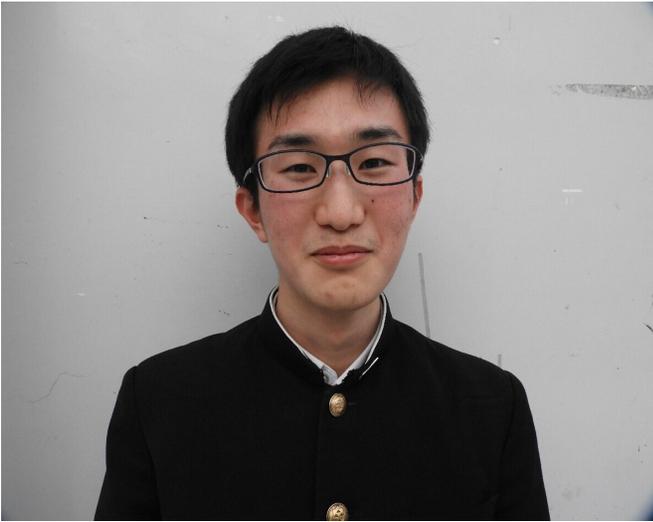
また、校内装飾では「ソウシヨク改革」が行われた。校内をさまざまな装飾する装飾課、美術課、一般展示班で装飾テーマを「魔法学校」と統一することにより、例年よりも高いクオリティの世界観を作り出した。

新たな取り組みとして「タカタカパンプロジェクト」が行なわれた。このプロジェクトは、高料理研究会と群馬フードサービスが共同して3種類のオリジナルパンを販売するというものであった。また、高崎駅から高崎高校までのシャトルバスや仮装行列が今回から再開した。

そこで、元翠巒祭実行委員長の花田智紀くん(3の1)に今年の翠巒祭を振り返っての感想を聞いた。

まず、翠巒祭を総括して、「今年は各イベントのスケジュールを相互に調整し、お客様ができるだけ各場所のメインイベントを見ることができるようになったのはよかったと思う。一方で、実行委員や一般生徒の人事スケジュールに問題があり、過労の生徒が出てしまったのは反省点だ」と振り返った。

第71回翠巒祭実行委員長の花田智紀くん



また、チケットの不審者の入場や入場者過多を防げたため、よかったと思う。しかし、入場者数を限定してしまい、翠巒祭に来たい方全員が入場できないわけではな

# 翠巒祭新実長就任 「以前を超える盛り上がりを」

い点は改善しなければならぬ」と話した。

さらに、翠巒祭を開催するにあたって苦労したことを聞くと、「始めはバスも仮装行列も行わないという形態での開催を考えていた。しかし、チーフ陣の団結やOBの方々の苦労のおかげでどちらも復活させることができた」と話した。

最後に、「今年の翠巒祭を盛り上げてくれたのは間違いなく君たちです。そして、来年の翠巒祭をさらに盛り上げるのも君たちです。これから先も、より多くのお客様に愛され、楽しんでもらえる翠巒祭を作っていくてください」と後輩へエールを送った。

(新井)

今年度の第71回翠巒祭も、最終的には成功といえる形で終わることができた。しかし、模擬店や一般展示での待ち時間が長くなってしまったり、不正入場があったりとさまざまな課題が浮き彫りとなった。

そこで、第72回翠巒祭実行委員長となった常見健太くん(2の1)に今回の翠巒祭に向けて、今回の反省点や、今後の展望について話を聞いた。

常見くんは、今年度の翠巒祭を振り返って、「班課どうしや、実行委員と一般生徒間での情報伝達があつたことで、きなかつたために、トラブルが起きてしまった。また、実行委員が自身の仕事に向かわず、作業が滞ってしまった」と指摘した。

その上で、「そのようなトラブルを未然に防ぐため、



第72回翠巒祭実行委員長の常見健太くん

情報共有を綿密に行ない、学校全体で翠巒祭を作っていく」と改善案を提示した。

来年度の開催形態については、「チケット制は感染症対策だけでなく、不審者対策も兼ねている。そのため、先輩や先生の中にはチケット制を支持する声も多い」と話した。

一方で、一般の方からは、「翠巒祭に行きたかったが、高校生との関わりがなかったために、チケットを手に入れたことができなかった」という声もあがったという。これに対して常見くんは、「県内最大級の文化祭を謳うからには、無制限にする必要があるのではないかと私は考えている。その中でも、メールアドレスなどの最低限の個人情報を得るなどの不審者対策が必要だろう。これは、来年度に向けての最重要課題と認識しているため、できる限り早くチーフとの話し合いの場を設

「昨日人を殺したんだ。」

カンザキオリの楽曲「あの夏が飽和する。」はこの一言から始まる。人を殺した少女とタメ人間の少年の、この世から逃げ出す旅についての曲だ。旅の途中の少年のセリフに、次のようなものがある。

「人殺しなんてそこら中湧いてるじゃんか。」

少女の殺人は故意ではない。いじめられていた少女は、いじめっ子の肩を突き飛ばした。

よるめいたいじめっ子は打ちどころが悪くそのまま亡くなってしまった。つまりこれは事故だ。それでも少女は「自分が人を殺した」という自覚のもと、自分が死ぬための旅に出る。

さて、少年が言った「人殺しなんてそこら中湧いてるじゃんか」という言葉を思い出したい。この「そこら中に湧いてる人殺し」にはきつとインターネット上の誹謗中傷を行なう人達が含まれている。近年では「指殺人」という言葉が表すように、インターネット上の誹謗中傷が誰かを自殺に追い込むこともある。問題なのは、この加害者、つまり人殺したたちが、その自覚を持っていないかどうかだ。インターネットでのやり取りというのは基本的に相手が見えない。相手が見えないと、加害の自覚も生まれにくい。きつと、あの人を死に追い込んだ人たちが、何も知らず、のうのうと生きていく。

別に私は、人殺しが少女のようにみな死ねばいいという話をしていくわけではない。ただ、人は生きる上で、自分を表出しようとする上で、きつと常に誰かを傷つけている。大事なものは、その自覚を持って生きていくかなのと思う。

## 寄稿

2130 常見健太

「昨日人を殺したんだ。」

カンザキオリの楽曲「あの夏が飽和する。」はこの一言から始まる。人を殺した少女とタメ人間の少年の、この世から逃げ出す旅についての曲だ。旅の途中の少年のセリフに、次のようなものがある。

「人殺しなんてそこら中湧いてるじゃんか。」

少女の殺人は故意ではない。いじめられていた少女は、いじめっ子の肩を突き飛ばした。

よるめいたいじめっ子は打ちどころが悪くそのまま亡くなってしまった。つまりこれは事故だ。それでも少女は「自分が人を殺した」という自覚のもと、自分が死ぬための旅に出る。

さて、少年が言った「人殺しなんてそこら中湧いてるじゃんか」という言葉を思い出したい。この「そこら中に湧いてる人殺し」にはきつとインターネット上の誹謗中傷を行なう人達が含まれている。近年では「指殺人」という言葉が表すように、インターネット上の誹謗中傷が誰かを自殺に追い込むこともある。問題なのは、この加害者、つまり人殺したたちが、その自覚を持っていないかどうかだ。インターネットでのやり取りというのは基本的に相手が見えない。相手が見えないと、加害の自覚も生まれにくい。きつと、あの人を死に追い込んだ人たちが、何も知らず、のうのうと生きていく。

別に私は、人殺しが少女のようにみな死ねばいいという話をしていくわけではない。ただ、人は生きる上で、自分を表出しようとする上で、きつと常に誰かを傷つけている。大事なものは、その自覚を持って生きていくかなのと思う。

「けたい」と語った。

また、第72回翠巒祭から副実行委員長を2人から3人に増やしたことについて、「もともと自分が花田さんの話を勘違いしてしまったことがきっかけだが、増やしたからには、何か新しいことに挑戦したい。第72回翠巒祭は『コロナ禍』から『コロナ後』へと変わった時期での開催となり、ここ数年の翠巒祭とは大きく異なったものになると思う。そうした中で、副実行委員長には委員長とともに実行委員の中心となって活躍してほしい」と述べた。

最後に、「来年度は、コロナ禍が明けての開催となるが、コロナ前と同じ形態とはならないだろう。コロナ前を超える盛り上がりを見せる翠巒祭にしたい」と意気込んだ。

(新井)

寄稿文を募集します！

ゲーム、スポーツ、政治、学問、趣味など、世の中に提言したいことや日常の不満などについて、高生の内秘めた熱い想いを語ってください。少しでも書いてみたいと思ったら、左のQRコードを読み取り、意見を投稿してください。ぜひお願いします！

(新井)

